にかほ市 地震防災マップ

象潟地域

揺れやすさマップ

地域の危険度マップ

地震防災マップとは

このマップは、地震による被害が大きいとされる「秋田沖地震」と、「小滝断層」を想定地震として、にかほ市で想定される震度、建物の被害状況を予測しマップに示したものです。

このマップを参考に自宅や地域の状況を知り、日頃から地震に対する備えを心がけましょう。ただし、あくまでも予測値であるため、マップに表示した以上の震度が考えられますので、十分な注意が必要となります。

にかほ市　平成22年11月発行

災害用伝言ダイヤル 171　災害発生時に被災地の方と連絡・安否確認

家族間や知人間などの、安否の確認連絡に活用できます。ご利用にあたっての事前契約等は、一切不要です。

録音方法　1 7 1 ➡ 1 ➡ 自分の電話番号(市外局番から)(XXXX)XX－XXXX ➡ 伝言を入れる（1メッセージあたり30秒以内）

音声による案内が流れます　被災地の方は自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

再生方法　1 7 1 ➡ 2 ➡ 相手の電話番号(市外局番から)(XXXX)XX－XXXX ➡ 伝言を聞く

音声による案内が流れます　被災地の方は自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

171へダイヤルすると、ガイダンスが流れますから、それに従って伝言してください。
伝言ダイヤルサービスの開始は、テレビ・ラジオなどで通知されます。

体験利用日
- 毎月1日 00:00～24:00
- 正月三が日（1月1日00:00～1月3日24:00）
- 防災週間（8月30日9:00～9月5日17:00）
- 防災とボランティア週間（1月15日9:00～1月21日17:00）

携帯電話災害用伝言板サービス

震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・PHSを利用して地震の安否確認を登録、家族や友人の安否確認を確認することができます。

それぞれの携帯電話・PHSの「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択して下さい。
※他社携帯・PHSおよびパソコンなどからも、家族や友人の安否情報をご確認いただけます。

NTTドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
ソフトバンクモバイル	http://dengon.softbank.ne.jp/
イー・モバイル	http://dengon.emnet.ne.jp/
ウィルコム	http://dengon.willcom-inc.com
au by KDDI	http://dengon.ezweb.ne.jp/

災害時の情報入手先　テレビ・ラジオなどからの情報収集に努めてください。

●気象庁（地震情報）	http://www.jma.go.jp/jp/quake/
●内閣府（防災情報のページ）	http://www.bousai.go.jp/5jishin/
●日本道路交通情報センター	http://www.jartic.or.jp/
●秋田県防災ホームページ	http://www.akita-bousai.jp/
●にかほ市ホームページ	http://www.city.nikaho.akita.jp/

お問い合わせ
にかほ市役所 総務部 総務課 防災危機管理センター TEL 0184-43-7504（直通）

地震を知る

震度とは、地震の強さの程度を示すものです。
地震の揺れにより、
どのような現象の被害が
発生するか一般的に例示しています。

気象庁震度階級関連解説表より一部抜粋

震度4

ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。

屋内の状況:電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。
屋外の状況:電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。

震度5弱

大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。

屋内の状況:電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
屋外の状況:まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
耐震性が低い木造建物:壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。

震度5強

大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。

屋内の状況:棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。
屋外の状況:窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
耐震性が低い木造建物:壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。

震度6弱

立っていることが困難になる。

屋内の状況:固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
屋外の状況:壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
耐震性が高い木造建物:壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。
耐震性が低い木造建物:壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度6強

立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。

屋内の状況:固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
屋外の状況:壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
耐震性が高い木造建物:壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。
耐震性が低い木造建物:壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが多くなる。傾くものや、倒れるものが多くなる。

震度7

立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。

屋内の状況:固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。
屋外の状況:壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。
耐震性が高い木造建物:壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。まれに傾くことがある。
耐震性が低い木造建物:傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。

木造建物(住宅)の定義
(注1)木造建物(住宅)の耐震性により2つに区分けした。耐震性は、建築年代の新しいものほど高い傾向があり、概ね昭和56年(1981年)以前は耐震性が低く、昭和57年(1982年)以降には耐震性が高い傾向がある。しかし、構法の違いや壁の配置などにより耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。

(注2)この表における木造の壁のひび割れ、亀裂、損壊は、土壁(割り竹下地)、モルタル仕上壁(ラス、金網下地を含む)を想定している。下地の弱い壁は、建物の変形が少ない状況でも、モルタル等が剥離し、落下しやすくなる。
(注3)木造建物の被害は、地震の際の地震動の周期や継続時間によって異なる。平成20　年(2008年)岩手・宮城内陸地震のように、震度に比べ建物被害が少ない事例もある。

地震発生! その時どうする?

地震の時、まず自身の安全確保が第一です。
身の回りの物で頭や身体を守り、
冷静に行動できるよう防災訓練に参加するなどして、
覚えましょう。

まずは自分の身の安全を確保しよう

ゆれを感じたら、じょうぶな机やテーブルの下にもぐるなどして頭を守りましょう。

ドアをあけて出口を確保しよう

ゆれがおさまったら、ドアを開けて出口を確保しましょう。うごくときはスリッパをはきましょう。

ゆれがおさまったら火の始末をしよう

大きくゆれている最中にムリをして火を消そうとすると、大やけどをすることがあるので注意しましょう。

避難するときは徒歩にしよう

ヘルメットや防災ずきんをかぶろう。非常持ち出し品など、必要最小限のものにしましょう。

あわてて外に飛び出さないようにしよう

屋根がわらや看板などが落ちてきてけがをする危険性があります。

正しい情報を入手しよう

地震は1分過ぎればまず安心。家庭などで話し合ったことを思い出しましょう。

総務省消防庁「わたしの防災サバイバル手帳」より抜粋

ブレーカーを落とす

漏電による火災の恐れがあるので、避難する際は必ずブレーカーを落としましょう。

忘れないで、連絡メモを!

避難時など自宅を離れる場合、玄関など見やすい場所に避難先や安否情報を書いたメモを貼りましょう。

パパへ
○○公民館へ避難します。
みんな無事です。
21日午前11時
ママより

非常持出品

●非常持出品は、すぐ取り出せる場所にまとめて保管しておきましょう。
●家族構成など必要に応じて準備しましょう。乳幼児やお年寄りなどで特に必要なものがあれば付け加えておきましょう。
●非常持出品は定期的に点検をし、保存状態や使用期限などをチェックして、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

一次持出品（例）

一次持ち出し品は大きな地震が発生して避難する際、最初に持ち出すべきものです。

貴重品
現金（10円があると公衆電話利用に便利）、預金通帳、印鑑、免許証、保険証など。

懐中電燈
できれば1人に1つ。予備電池も用意。

非常食
カンパンや缶詰など火を通さなくても食べられるものや栓抜きなど。

タオル・下着・靴下など

携帯ラジオ
AM、FM両方が聞けるものを。予備電池など。

救急医薬品・常備薬
ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、持病のある方は常備薬など。

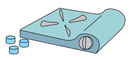
その他
ティッシュ、軍手、ロープ、マッチ、洗面用具、生理用品など。

二次持出品（例）

大災害時に、組織的に救援・復旧活動が軌道に乗るまで、最低3日間は自活できるようにしておきましょう。

食料
米や簡単な調理で食べられる食品など。

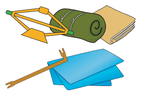
燃料
卓上コンロや固形燃料など。



飲料水
1人1日3リットルが目安。ポリタンクなどに保存しておきましょう。

枕元には
●夜中の地震に備えて、懐中電灯、ラジオ、靴などを用意し、袋にいれておきましょう。

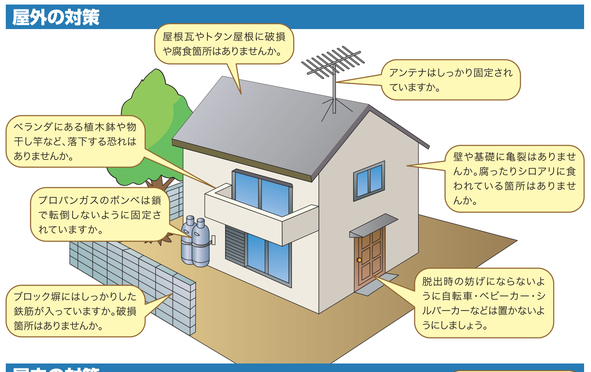
車の中には
●バール、ジャッキ、テント、毛布、寝袋、ビニールシートなども車の中や取りやすい場所に用意しましょう。



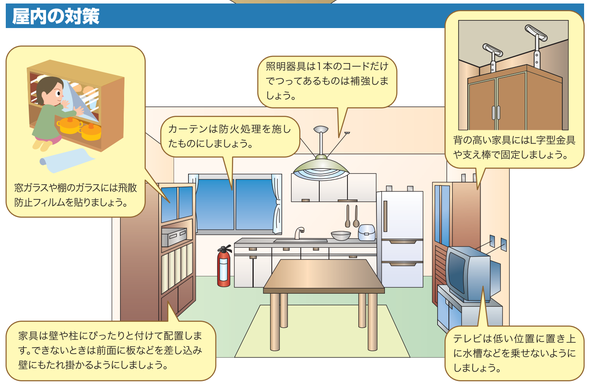
わが家の防災対策

わたしたちができる最も手軽で有効な地震対策は、
家具の転倒・落下を防ぐ対策と、
家の周囲のブロック塀などの安全対策です。
今のうちに家の内外を点検して、以下のような対策を進めておきましょう。

屋外の対策



屋内の対策



わが家の耐震診断

にかほ市では、地震災害に強い安全・安心なまちづくりを推進するため、耐震診断と改修工事の実施を呼びかけています。

木造住宅耐震診断補助事業

にかほ市内の一定の要件を満たす木造住宅の耐震診断について、費用の一部を補助する制度です。

■対象となる住宅
次に掲げる要件をすべて満たす木造住宅が対象です。
1.にかほ市内に存ること。
2.昭和56年5月31日以前に建築された木造戸建て住宅又は併用住宅であること。

木造住宅耐震改修補助事業

にかほ市内の一定の要件を満たす木造住宅の耐震改修について、費用の一部を補助する制度です。

■対象となる住宅
1.にかほ市内にある個人住宅で、自ら所有し、現に居住するもの。
2.昭和56年5月31日以前に建築された木造戸建て住宅又は併用住宅であること。
3.耐震診断の結果、上部構造評点が1.0未満のもの。
(耐震診断を実施していることが必要です)
4.にかほ市内の施工業者と耐震改修工事の契約を締結すること。

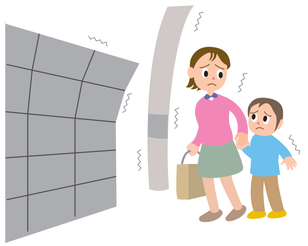
補助額：
耐震診断に要した費用の3分の2(上限3万円)

補助額：
耐震改修に要した費用の3分の1(上限60万円)

お問い合わせ
にかほ市役所象潟庁舎 総務部 総務課 防災危機管理センター　TEL(0184)43-7504

ブロック塀撤去補助事業

道路に面したブロック塀等で地震等の揺れにより倒壊する恐れのある塀の撤去に要する費用の一部を補助する制度です。

■対象となるブロック塀
次に掲げる要件をすべて満たすブロック塀が対象です。
1.道路に面しているブロック塀であること。
2.道路面から高さが1メートルを超えるもの。
3.実地調査において危険と判定されたもの。

■補助額
①撤去に要した費用の2分の1
②見付面積(高さ×長さ)×4,000円/㎡
①と②のいずれか少ない額(上限10万円)